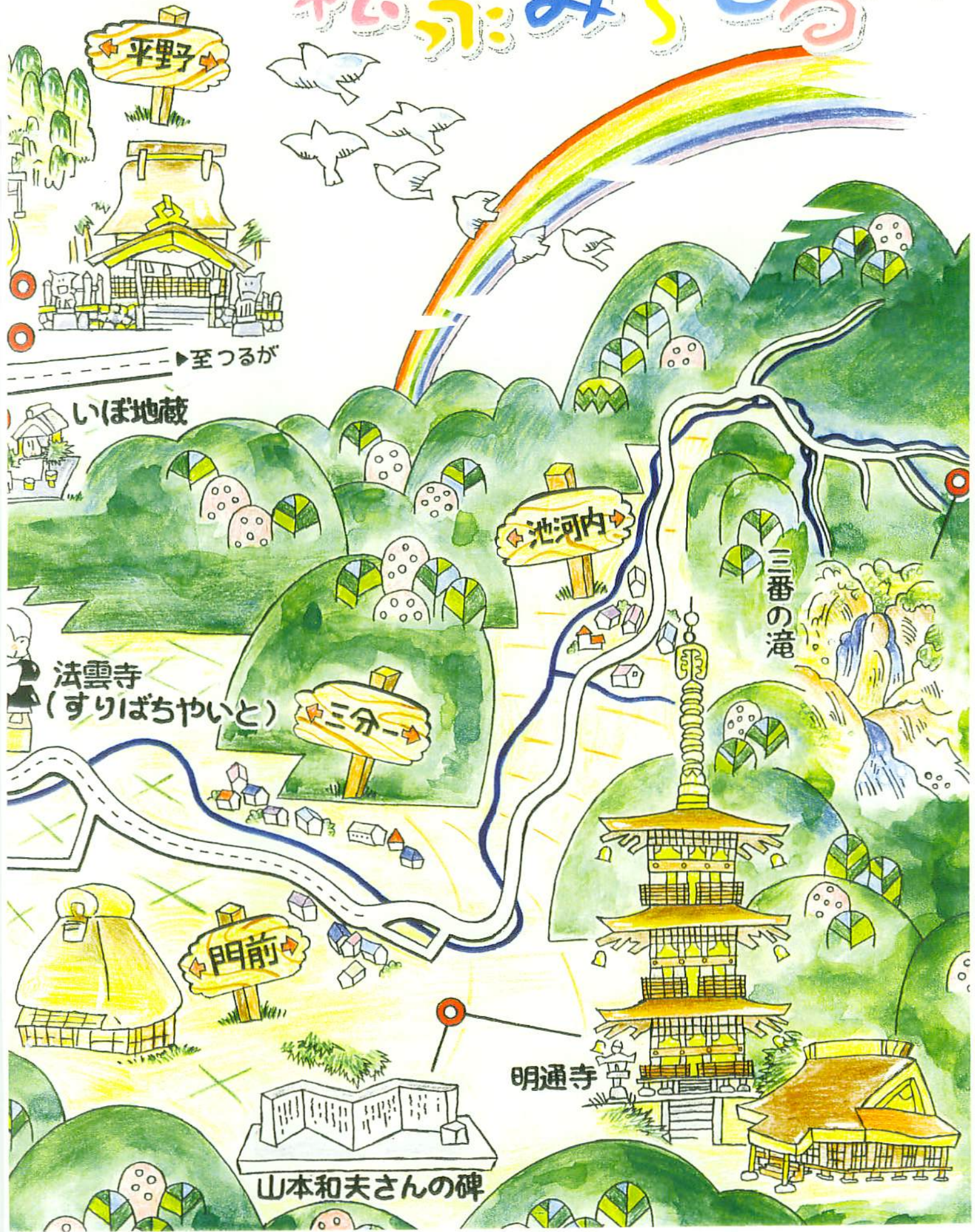


自然と国宝のさと

# 松平みずしるべ



平野

至つるが

いぼ地蔵

池河内

三番の滝

法雲寺  
(すりばちやいと)

三分

明通寺

山本和夫さんの碑

門前

# 松永地区振興計画

地区名 松永地区

地区委員会名 松永いきいきふるさとづくり策定委員会

## 目次

総論

### 第1章 住まいづくり

地区民が主体となって取り組む事業

- ① ごみのポイ捨て防止
- ② 分別収集の徹底

地区民と市が協働して取り組む事業

- ① 防災マニュアルの整備
- ② 新平野駅周辺整備
- ③ 松永川の改修

市に依頼しなければならない事業

- ① 若狭西街道の整備
- ② 小浜朽木高島線の整備
- ③ 主要幹線道路の整備
- ④ せせらぎ水路・ビオトープの整備

### 第2章 ものづくり

地区民が主体となって取り組む事業

- ① 伝統保存食・行事食の発掘
- ② コスモス街道の整備
- ③ 森の学校・川の学校
- ④ 朝市の開催
- ⑤ ハイキング道の整備
- ⑥ 松永案内看板の作成

地区民と市が協働して取り組む事業

- ① 特産品の開発・販売

市に依頼しなければならない事業

- ① 大規模圃場整備事業
- ② 赤とんぼ会館の建設

③ 農村公園の整備

すでに取り組んだ事業（成果）

① 各集落案内看板の設置

② 松永マップの作成

第3章 人づくり

地区民が主体となって取り組む事業

① ウォークラリー

② 健康マラソン

③ 祭り再発見

④ ホームページの開設

⑤ 松永カルタの作成

⑥ 松永音頭の作成

⑦ 松永郷土史発行

⑧ 松永塾の開校

⑨ 一人暮らし高齢者対策

⑩ 慣習の見直し

⑪ 市政報告会の開催

地区民と市が協働して取り組む事業

① みんなの詩

## 総論

松永は、国宝明通寺（本堂・三重塔）をはじめとする数多くの文化財と豊かな自然に恵まれた地区です。

計画書の策定にあたり地区民全員にアンケート調査を実施した結果、8割近くの方々から自然を愛し、地区に愛着と誇りをもっておられるという回答を得ることができましたが、一方で、全体的に受身、消極的な回答が多かったように思われます。

地区の高齢化率は22.8%で、他地区と比較するとほぼ中ほどになっています。東市場・上野地係に住宅団地が形成され、現在、高齢化・人口減少に歯止めがかかっている状態ですが、今後、高齢化率は高まり、人口も徐々に減少していくことが予測されます。

将来の松永地区発展のためには、豊かな自然環境を守り、古きよき伝統行事・習慣を継承していくことと、時代にあった生活形態を受け入れ、これらをうまく融合させていくことが肝要であると思われます。

## 第1 住まいづくり

### 章の説明

#### ■安全で安心な環境をつくろう

- ・豊かな自然と数多くの文化遺産を守り継承するとともに、社会基盤を整備し、防災対策を充実させて住みよい環境づくりに努めます。

### 地区民が主体となって取り組む事業

事業名	内容	実施時期	備考
ごみのポイ捨て防止	ごみのポイ捨て防止運動を展開し、ごみのないきれいなむらづくりに務める。	H16～H17	
分別収集の徹底	環境にやさしいむらづくりを目指すため、分別収集の徹底を図る。	H16～H17	

### 地区民と市が協働して取り組む事業

事業名	内容	実施時期	備考
防災マニュアルの整備	危険箇所の把握、危機管理意識の高揚を図り、被害の未然防止に努める。	H18～H19	
新平野駅周辺整備	松永地区の玄関口として整備し、地区の活性化を図る。	H17～H18	
松永川の改修	葦の有効利用を図り、松永川の改修・美化に取り組む。	H16～H20	

## 市に依頼しなければならない事業

事業名	内容	実施時期	備考
若狭西街道の整備	若狭西街道の開通により小学校・緑川団地周辺の交通安全の確保を図る。	H16～H20	
小浜朽木高島線の整備	県道小浜朽木高島線の早期建設に積極的に取り組む。	H16～H20	
主要幹線道路の整備	地区内主要幹線道路（生活道路）の拡幅および改修整備を図る。	H16～H20	
せせらぎ水路・ピオトープの整備	大規模圃場整備事業によりせせらぎ水路・ピオトープの整備を図る。	H16～H20	

## 第2 ものづくり

### 章の説明

#### ■ 自然の恵みをいただく

・大規模圃場整備事業により農業の担い手育成と経営基盤の安定および環境保全に努めます。また松永マップ、案内看板の作成等、松永の特色を活かした事業を展開します。

## 地区民が主体となって取り組む事業

事業名	内容	実施時期	備考
伝統保存食・行事食の発掘	松永地区独自の食の掘り起こしを行い、地区行事、家庭のメニューに加える	H16～H20	食関連
コスモス街道の整備	コスモス街道のエリアを地区全域に広げ、花いっぱい運動に取り組む。	H16～H20	
森の学校・川の学校	自然を利用した遊びの楽しさと環境保護の大切さを学ぶ。	H16～H18	
朝市の開催	松永の特産品を販売し、地区民の生きがいづくりに努める。	H19～H20	食関連
ハイキング道の整備	むらの廃道を地区民の心を癒すハイキング道として整備する。	H16～H18	
松永案内看板の作成	松永の玄関口に名称・旧跡の入った地図入り案内看板を設置する。	H18～H20	

## 地区民と市が協働して取り組む事業

事業名	内容	実施時期	備考
特産品の開発・販売	安全で安心な松永の特産品の開発に取り組み、商品化して朝市で販売する。	H18～H20	食関連

### 市に依頼しなければならない事業

事業名	内容	実施時期	備考
大規模圃場整備事業	農地の保全と環境整備、生きがいつくりに取り組む。	H16～H20	
赤トンボ会館の建設	創作の場として「赤トンボ会館」を建設し、山本和夫氏の関係図書を展示する。	H18～H20	
農村公園の整備	地区民の憩いの場を確保するとともに、朝市を開催する。	H16～H17	

### すでに取り組んだこと（成果）

事業名	内容	実施時期	備考
各集落案内看板の設置	各集落ごとに手作りの案内看板を作成し、設置する。	H15	
松永マップの作成	松永の名称・旧跡、歴史を記した松永マップを作成し、松永のPRに努める。	H15	

## 第3 人づくり

### 章の説明

#### ■心豊かにいきいきと生きよう

・少子高齢化の到来により、高齢者の生きがいつくりと青少年の健全育成に努めます。また従来からの男女の役割分担・行事・生活習慣を見直し、住みよい松永を目指します。

### 地区民が主体となって取り組む事業

事業名	内容	実施時期	備考
ウォークラリー	地区に対する認識を深め、地区民相互の親睦と健康づくりに努める。	H16	
健康マラソン	西街道を利用した「こぶし駅伝」を開催し、健康づくりと交流の場を広げる。	H17	
祭り再発見	地区の老若男女が集う「全員参加のむら祭り」を開催する。	H18～H19	
ホームページの開設	ホームページを開設により情報発信し、地区のPRに努める。	H17～H18	
松永カルタの作成	郷土愛を育むとともに、家族そろって団欒の時間を過ごす。	H17～H18	
松永音頭の制作	松永音頭を制作し、地区行事・祭りの際に踊る。	H16～H17	
松永郷土史の発行	地区の歴史と文化を知り、継承していくために郷土史を発刊する。	H16～H20	

松永塾の開校	ふるさとづくりの拠点とし、生きがいづくりと人材の育成に努める。	H16~H18	
一人暮らし高齢者対策	声かけ運動により心のケアに努めるとともに、ボランティア活動を展開する。	H16~H18	
慣習の見直し	行事・生活習慣を見直し、住みよい環境づくりを進める。	H17~H18	
市政報告会の開催	行政情報を積極的に収集し、むらづくりに役立てる。	H16~H17	

地区民と市が協働して取り組む事業

事業名	内容	実施時期	備考
みんなの詩	「山本和夫生誕の地」にちなみ、いつも音楽の流れるむらづくりを展開する。	H17~H19	

# 松永村の歴史

## 1. 松永村の誕生

明治維新後の廃藩置県で小浜県、敦賀県、滋賀県と変遷し、明治14年(1881)に(福井県となる。松永村が誕生したのは、明治22年(1889)4月1日。当時の人口は329世帯、1,628人(男性806人・女性822人)。

## 2. 松永小学校の誕生

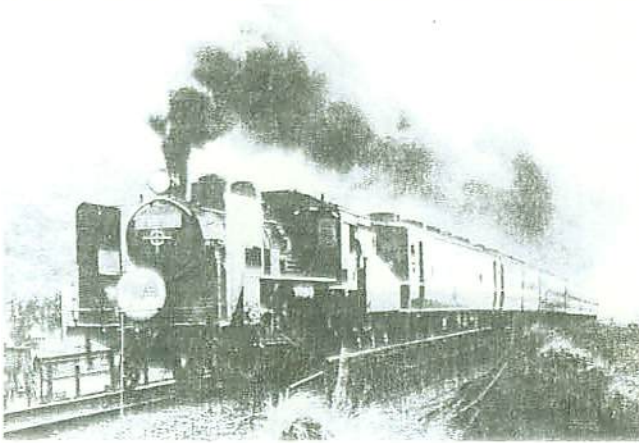
明治6年(1873)9月27日、太興寺の栄松寺を借りて松永8村の総合公立学校として発足。啓心校と命名。翌7年3月に徒善校(池河内)、作民校(門前)が独立。当初は、句読、習字(読み書き)の2教科。明治14年12月に小浜の酒蔵を購入して、太興寺区内に独自の校舎を建設。明治25年には徒善校、作民校の2校を廃止して啓心小学校の分教場となる。



## 3. 産業の育成

農業を基幹産業としながらも、林業の育成、養蚕に力を入れる。育苗園をつくり実費で苗木を配布したり、養蚕では特定の家だけが大量の生産をするのではなく、村人一人ひとりの収入が増えるよう一世帯5匁以上の生産を奨励した。明治43年(1910)3月に池河内で信用販売購買組合を設立。(当時小浜全体で16組合)これを松永全体に広げることを決め、翌年、平野で組合を設立。

## 4. 小浜線と新平野駅の誕生



大正6年(1917)6月の小浜線第4工区竣工と同時に新平野駅が誕生。新平野駅は小浜駅と並ぶ最も古い駅。

## 5. 小浜市への合併

昭和26年(1951)3月30日の小浜町、今富、国富、遠敷、内外海、口名田、中名田、松永の8町村が合併。人口35,386人、7,680世帯。松永においては、1,606人、338世帯。

## 6. 13号台風の被害

昭和28年(1953)9月25日、台風13号で大きな被害を受ける。松永川で17箇所が決壊し、橋が流失。多くの田畑が土砂に埋まり壊滅的な打撃を受ける。





## 7. 池河内の大火

昭和31年(1956)4月、池河内で大火が発生。松永の各区、遠敷、宮川など近隣の消防団がポンプを大八車に乗せて駆けつけたが、火のまわりが早く集落のおよそ3分の1を消失。災害救助法が適用され県内各地から支援物資が届けられた。

## 8. 松永の伝統行事

### ◆ 春祭り

現在は、4月13日が「村祭り」の日で幟がたてられる程度。明治末期から戦後までは5月13日が祭りで学校は臨時休校。「場売り」という露店もでるなど一大行事であった。

### ◆ 田の神祭り

田植えが終わった後、「田の神」に五穀豊饒を願う 祭りであり、子どもが御輿を担いで各家をまわる。小浜市では北川流域だけで行われている。

### ◆ その他

「六斎念仏」、害虫から米を守る「虫送り」の行事 も行われていた。今も朽木村で行われている六斎念仏は「松永谷から伝わった」と言われている。



## 9. 松永のお寺



### ◆ 隣向院(東市場)

旧国分寺の大伽藍に隣接した森に建立された寺院。十一面観音像は泰澄大師の作といわれ、17年に1回ご開帳となる。

### ◆ 太興寺(太興寺)

小浜市内で最も古い瓦を葺いた寺院で、8世紀には存在していたと考えられる。

### ◆ 長福寺(平野)

観音堂に安置されている十一面観音立像は同地区にあった真言宗の吉祥寺の本尊であったが、戦乱の中で廃寺となり長福寺に祀られたといわれている。

### ◆ 永福庵跡(上野)

面山和尚が空印寺の住職を隠居して現在の石碑の場所に庵を建て、住まわれていた。明治16年(1883)に奥田繩に移転。

### ◆ 法雲寺(四合一)

同寺の地藏菩薩坐像は中風除けとして有名。茶臼山城主であった多伊良太郎のお守り仏であったといわれている。毎年7月1日の早暁に「すり鉢やいと」が行われる。

### ◆ 明通寺(門前)

征夷大将軍坂上田村麻呂の建立といわれ、本堂、三重塔は建築物としては福井県で唯一の国宝。かつては25の坊があったといわれ、明治32年発行の案内書にはその図面が描かれている。

発行:松永いきいきふるさとづくり策定委員会 松永公民館内 TEL.0770(57)1200



# 計画書の策定にあたって

松永いきいきふるさとづくり策定委員会

委員長 須田 誠次

市民一人一人がまちづくりの一翼を担い、それぞれの地区の特性を生かしたまちむらづくりを進めることで、「自ら考え、参加するまちづくりの自主性を醸成し、市全体の活性化を図ること」を目的とした小浜市新世紀いきいきまちむらづくり支援事業に対し、松永地区においても平成13年度区長会のご努力により「松永いきいきふるさとづくり策定委員会」を立ち上げていただき、策定委員総勢28名が「長期ビジョンの振興計画策定」を終え、ここに「松永地区いきいきふるさとづくり計画書」をまとめました。以下簡単に振り返り、私見を述べさせていただいて挨拶に代えたいと思います。

世は21世紀に入り、世界を見ても日本を見ても環境の変化が著しく、大自然の態系に異変が起きているように感じます。また人心等の在り様、持ち様にしても、高度技術の発達による様々な恩恵、利便性と同時に、大自然と同様様々の大惨禍も招いています。でも、もう昔に戻ることは誰も望んではいけないでしょう。21世紀を生きる我等人間の英知を結集して失ってはならないもの、克服すべきものをしっかり見定め考えて、いろいろなことに関心を持つ常日頃の生活が大切だと思います。

さて、「松永いきいきふるさとづくり策定委員会」の組織構成は、各集落において委員2名が選出されました。いずれの集落も適任者を充てていただきましたし、2集落においては男女1名ずつ選出していただけたことは先見の表れと思います。女性の思いや感覚が薄れ勝ちになることの多い中、女性の代表として婦人会からは歴代会長3名を加えていただき、集落の女性委員ともども女性のご意見を反映いただけたものと思っています。また、小さい地区でありながら市議3名という恵まれたご意見番を擁し、適切なご指導とご助言をいただけたことは、これまた時代の流れに乗れたものと確信しています。

市長からも「市の職員を活用して欲しい」とのありがたい応援の言葉もあり、当地区では3名の市職員の方を依頼し終始積極的に参画、協力いただいて資料、アンケート等においても正確を期せました。また発足当時の区長会からは常に委員会の成り行きを側面的に応援し、見届けていただく3名を加えていただきました。

この3年間を何からはじめるものか、手探り状態から、先ず地元を知ることとして池河内出身で大先輩の「小畑昭八郎」氏に講演と名所の現地説明を受け、すばらしい足元を見つめ直す機会となりました。福井市岡保地区への先進地視察においても、活動家による現状と現地説明を受け、多くのヒントを得ることができました。地区民の松永に対する意識を尋ね、同時に夢やご意見を求めるアンケート調査も実施しました。

小学校の皆さんにもご協力いただき地区民の80%の回答をいただきました。アンケートのすべては計画書に載せることはできませんでしたが、これからのふるさとづくりを進めていく心強いご意見、民意として計り知れない貴重な財産として活用させていただくこととなります。委員会のアピールと取組みの実績を兼ね地区案内看板を設置、進捗状況等を地区民にお知らせする広報誌も発行配布させていただきました。区長様はじめ各種団体長の皆様にもご意見をいただき、会議を重ね今日に至りました。

地区の皆様にはこの計画書を最後まで読んでいただいて、ご感想をお寄せいただきたい、と同時に、16年度から実施・実践に移りますので、「私はこんなことをしたい」「手伝いたい」「興味を持った」「自分を生かしたい」そんないろんなご意見をお持ちの老若男女が集まって、積極的に関わっていただき“自分の住む村を自分たちで”そんな「住民パワー」「埋もれ隠れたパワー」で自己発見・他人発見・松永発見してふるさとを再認識し、住み心地のよい自然と国宝のさと松永にしていきたいと思います。

松永の明通寺本堂・三重塔は日本海側の数少ない国宝として全国的に有名です。そして松永から遠敷一帯も古くは舌狭の中心地域として政治や商業・交易で栄えたともいわれています。そして今、生活基盤は上水道としての飲雑用水が早くから整備され、下水道としての農業集落排水施設も他地区に先駆け完備し、農村生活様式の変化をもたらせました。そしてこれから基盤整備をして土地の価値を高め、農地保全と環境を考慮した土地改良事業が始まります。壮大な構想のもと、見違える松永平野となることでしょう。また今年8月のアテネオリンピックには池河内出身「川畑宏美」さん(松永小・二中・福商・ジャパンエナジー)が女子バスケットボール日本代表として選抜されました。世界に羽ばたく乙女が生まれ育った「松永」としてこれほどの誇りはありません。体調を万全にし、日頃の力を十分発揮されるご活躍を地区みんなで応援させていただきます。どうかではありませんか。

最後になりましたが、委員の皆様には3年間ご苦労様でした。仕事を持ち、都合を繰り合わせての活動でいろいろご苦労が多かったと思います。お互いカバーしながら頑張ってくださいました。お陰様で地区の皆様、関係各位のご協力でここに「地区長期ビジョンと振興計画書」ができました。今後はその計画を形にしていくメンバーとして更なるご協力・ご尽力をお願いいたします。

まだまだ不十分なところが多々あると思います。それは今後、地区民・区長会・各種団体が一体となった実践活動の中から修正・追加を繰り返し、よりすばらしいものに作り変えていただきたく思います。この計画書策定が地区の皆様にとっても、委員会にとっても「辛美の花咲く松の緑の松永」を自分たちで新しく作ろう・創れるんだと感じられる本当に意義ある事業であったことを共に確認し、行動を起こすきっかけになってくれるものと確信しています。

微力な私でしたが、皆様方のご指導ご協力により、お陰様で今日を迎えました。ありがとうございました。

## 大きな視野で足元から行動を

松永地区区長会

会長 川畑 哲夫

いきいきふるさとづくり策定委員会のみなさま、3年間のご奮闘ご苦労様でした。

地区民アンケートから始まった活動が、委員のみなさまのご努力によって新しいふるさとづくりの計画として実りましたことを大変うれしく思います。

もともと村づくりは、そこに住む人々が寄り合いでの話し合いの中で進められてきたものと思います。明治維新直後、松永の人たちは学校づくりを始めます。読み書きをまともにできなかった親たちが、子どもたちの教育に真っ先に取組みます。昨日まで君臨していた殿様が突然いなくなるという激動の中で、新しい時代の到来を直感した村人の大きな意気込みを感じ、胸が熱くなります。

私の住む池河内は炭焼きを生業としていましたが、当時、炭を運ぶにも門前までは人が歩ける程度の道しかなかったそうです。そんな中で、松永8村が「松永谷は一つ」と努力し、県道認定の運動に取り組み東市場から池河内までが県道として整備されました。ふるさとの歴史に学び、新しい歴史をつくっていくのが現代に生きる私たちの役目ではないかと考えます。

戦後半世紀の間に、有力者やお上への陳情によって仕事をとってくるという体質にならされ、「歌をわすれたカナリヤ」のように、自分たちで考え、自分たちで行動してむらづくりを進めることを忘れていたように思います。アメリカの市民運動の合言葉に「シンク・グローバリ・アクト・ローカリー」というのがあります。大きな視野で考え、足元から行動しようという意味です。新しい「ふるさとづくり」にぴったりではないかと思えます。

今年は、計画に基づく実践の初年度であり、土地改良区による事業も始まります。まさに「ふるさとづくり」元年ともいえる年ではないでしょうか。多くの地区民のみなさまのご協力で大きな成功を治めることをお願い致しましてご挨拶といたします。



## 目次

松永の姿	5
現状と課題	5
松永地区いきいきふるさとづくり長期ビジョン	8
住まいづくり	
■交通網の整備	9
■命と環境を守る	9
■防災対策	10
ものづくり	
■もっと活かせる	11
■農林業の振興	11
■地産地消	12
■ここが松永だ	12
■食のむらづくり	12
人づくり	
■文化と歴史に誇りと愛着を	13
■健康いきいき	13
■むらの発掘	14
■生涯学習	14
■慣習の見直し	14
■高齢者・青少年対策	15
■市政を身近に	15
振興実施計画（5年間）	16

### 【資料編】

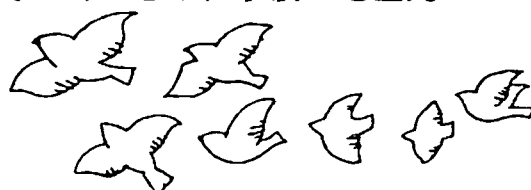
策定委員会名簿（部会別）	19
活動報告	20
活動写真	22
地名の由来	24
人口・世帯数の推移（過去10年間）	26



## 松永地区いきいきふるさとづくり計画書

### 《松永の姿》

- 松永は小浜市の東部、北川中流左岸とその支流である松永川流域に位置します。国宝明通寺をはじめ三番の滝、茶臼山城跡、法雲寺（すり鉢やいと）、面山和尚の碑、太興寺古墳群、日枝神社、桜神社、白鬚神社古墳、日吉神社など、豊かな自然と文化遺産に恵まれた歴史のある地区です。人口1,349人、世帯数403世帯、うち65才以上の高齢者は307人（H15.4.1 現在）となっており、高齢化率は22.8%で小浜市内の他の地区と比較すると、ほぼ中ほどになっています。東市場・上野地係に住宅団地が形成され、現在、人口減少に歯止めがかかっていますが、今後、人口は徐々に減少していくことが予測されます。伝統行事・古きよき慣習等を守り伝えていくとともに、時代にあった生活形態を受け入れ、両者をうまく融合させていくことが、今後の地区発展のために重要となってきます。



### 《現状と課題》

- アンケート調査を実施させていただき、897名という多くの方々から回答をいただきました。その結果を踏まえ現状と課題を考えてまいります。
- ◆8割近くの方が松永地区の自然を愛し、地区に愛着と親しみを感じておられます。また松永地区に今後も住み続けたいと思っておられる方もほぼ同数となっています。
- しかしながら、住み続けたい理由のベスト3が ①家や土地があるから ②生まれ育った所だから ③自然環境がいいからとなっており、どちらかという受身・消極的な姿勢がうかがえます。
- 一方で、住み続けたくない理由のベスト3が ①買物など生活に不便だから ②交通（通勤・通学）が不便だから ③公共施設が整っていないからとなっており、ハード面での生活環境の不備を上げておられます。
- 利便性と自然環境の保全・整備は、ややもすると相反することになりますが、今後、両者をどのように組み合わせしていくかが重要なカギとなってまいります。

- ◆自慢できるもの、守り伝えていきたいものの上位は、自然環境・明通寺・三番の滝・法雲寺（すり鉢やいと）等でありました。  
一方で、特になしと答えられた方の数値が22%にも上ったことを重く受け止めなければなりません。  
今後、松永のすばらしい財産を地区のみなさんに再認識していただき、松永の特性を活かしたふるさとづくりを進めていかなければなりません。
- ◆地区行事への参加については、体育祭が約半数、ふるさと祭りについては36%の方々が楽しみに参加していただいている様子がうかがえます。  
しかし、行事のマンネリ化（同じ内容・同じ構成員）を指摘されるご意見、もっと若者・子供が参加しやすい行事の開催をというご意見等もいただいております、どれも貴重なものとして今後の参考とさせていただきます。
- ◆団体への加入状況については、老人クラブが圧倒的な数値(23%)を示しています。  
一方で、青年層の加入率が低く、このことから地区と若者が疎遠になっていくことが懸念されます。
- ◆農業については、耕作を続けていくが55%、貸し付け・売却が43%とほぼ2分されたかたちとなっています。兼業農家が大半を占める中で、農業経営だけでは難しい状況にあることを反映した数値のように思われますが、今後、大規模圃場整備後の農業経営を考えていくうえでの貴重な資料といえます。
- ◆春まつりについては、職を立てるだけでは寂しい。地区全体で何か催し物を。といったご意見をいただいております。また、祭りの日につきましても、4月13日にこだわることなくみんなが参加しやすい土・日・祝日に。従来の5月13日に戻すといったご意見もいただいております。祭り自体の存在を知らない方もおられ、時代にあった祭りのあり方を模索する時期にきているのではないのでしょうか。
- ◆松永地区を住みよい地区にしていくためのベスト3が ①高齢者福祉の充実 ②道路・公共施設等の整備 ③自然環境の整備となっております。  
高齢者福祉の充実では、ふれあいの場を求める声が多く、また独居老人対策は、今後、高齢化が進んでいく中で避けては通れない問題であります。一方で、寝たきり老人をつくらない運動、買物・除雪等のボランティア活動の展開（地域通貨マリン等の活用）も進めていかなければ

ればなりません。

また道路・公共施設等の整備については、公園（憩いの場）の確保、外灯の設置、公共交通機関の充実等が必要となってまいります。

自然環境の整備については、松永川の美化、ごみの減量化、ポイ捨て・不法投棄の防止、農林業と連携した環境整備を進めていくことが必要であります。

- ◆松永が将来どのような地区として発展していけばよいかのベスト3が  
①自然を大切にした緑豊かな地区 ②心のふれあう人情味あふれる地区 ③治安のよい安全で安心な地区という結果になっています。  
恵まれた自然を大切に、心のふれあい・交流・助け合いを望んでいる地区民が多いことが伺えます。  
しかし、一方では、干渉されたくない、昔の習慣を変えて住みよい環境をつくって欲しいというご意見もありました。  
今後、価値観の多様化、世代間の考え方の相違をどのように解消し、住みよいふるさと・松永をつくっていくのかが重要となってまいります。





# 松永地区いきいきふるさとづくり長期ビジョン

基本理念	構想	目標	基本計画	施設	策	
自然と国土のさと松永・みんなで進めよういきいきふるさとづくり	住まいづくり	安全で安心な環境をつくらう	交通網の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>沿狭西街道を国道27号に安全架設で接続</li> <li>県道小浜朽木高島線から県道小浜上中線へ移設整備</li> <li>県道小浜朽木高島線の整備関連で生活、観光、産業の活性化</li> <li>JR小浜線の新平野駅周辺整備</li> <li>主要幹線道路の整備</li> </ul>		
			命と環境を守る	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然との共生とコミュニティ社会の構築</li> <li>小学校、保育園、公民館周辺の整備と安全確保</li> <li>ごみのホイ捨て防止と分別の徹底 ・リサイクル運動の展開</li> <li>野焼きの禁止</li> <li>せせらぎ水路、ビオトープでホテル・タニシ・カニ等の再生</li> <li>松永川の改修、美化</li> </ul>		
			防災対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>山の防災—山崩れ、鉄砲水、遊歩道</li> <li>川の防災—決壊による洪水浸水</li> <li>むらの防災—火災、地震、濁水、原子力災害</li> <li>危機管理意識の高揚—急傾斜地等危険箇所の把握</li> <li>防災マニュアルの整備、避難所の明確化と周知徹底</li> <li>幼児・児童の安全確保</li> <li>強盗、空き巣、詐欺泥棒、悪徳商法を声かけ運動で防止</li> </ul>		
	ものづくり	自然の恵みをいただく	もっと活かせる	<ul style="list-style-type: none"> <li>むらの廃道を整備してハイキング道（癒しの道）に</li> <li>コスモス街道の延長整備</li> <li>「森の学校」、「川の学校」の開校</li> </ul>		
			農林業の振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>農地の保全と自然、水体系の保護</li> <li>農業の担い手育成と経営基盤の整備</li> <li>農村公園の整備</li> </ul>		
			地産地消	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝市の開催</li> <li>川の葦が姿を変える</li> <li>安全で安心できる食の確保 ・小学校給食に地場作物を取り入れる</li> <li>松永で農林業を体験しよう</li> <li>蒭で作ろう ・藁で作ろう ・野菜を作ろう ・米を作ろう</li> <li>木で作ろう ・竹で作ろう ・土で作ろう</li> </ul>		
			ここが松永だ	<ul style="list-style-type: none"> <li>集落案内看板の設置と名所旧跡を入れた案内板の設置</li> <li>松永案内マップを新平野駅、商店、事業所等に配属して名所、行事の案内</li> <li>人の駅プラン（赤とんぼ会館）で山本和夫の資料図書展示と創作の場づくり</li> <li>国宝明通寺を中心とした観光客の誘致と受入体制の整備</li> </ul>		
			食のむらづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>松永の伝統保存食と行事食の発掘と活用</li> <li>松永特産品の開発と販売</li> </ul>		
	人づくり	心豊かにいきいきと生きよう	文化と歴史に誇りと愛着を	<ul style="list-style-type: none"> <li>「松永郷土史」の発行 ・昔話・伝承・行事等郷土の知恵を発掘</li> <li>「松永音頭」で古いも言きも歌って踊る</li> <li>「童謡・童話の里」宣言により、いつも音楽の流れるむらづくり（みんなの詩）</li> <li>松永ホームページの作成</li> <li>「松永カルタ」の作成で家族揃って楽しく団楽</li> </ul>		
			健康いきいき	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康マラソン ・史跡ハイキング ・ウォークラリーの開催</li> <li>こぶし駅伝</li> <li>「健康のむら宣言」で心も体もリフレッシュ</li> </ul>		
			むらの発掘	<ul style="list-style-type: none"> <li>村の達人の発掘 ・面山和尚碑の顕彰</li> <li>「全員参加のむら祭り」を開催</li> </ul>		
			生涯学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>人と自然そして鳥、虫、蛙、蝶、貝、鮎たちと遊ぶ</li> <li>国際交流 ・「松永塾＝松永講座」の開校で人材育成</li> <li>「学びのむら」宣言で教養の探求</li> </ul>		
慣習の見直し			<ul style="list-style-type: none"> <li>遊びの見直し</li> <li>家庭での役割、集落における夢画会への検討</li> <li>「男女共同参画社会」の学習と実践</li> <li>各種団体の見直し（統合）</li> <li>集落・地区の行事の見直し</li> </ul>			
高齢者青少年対策			<ul style="list-style-type: none"> <li>「在宅所」設置で高齢者松永いきいきゾーンの設定</li> <li>独居老人対策と寝たきり老人をつくらない対策</li> <li>地区行事に子供も積極的に参加 ・世代間交流の促進</li> <li>家庭、地域、学校が一体となって子どもの健全育成を展開</li> <li>子供の遊社会の再考</li> </ul>			
市政を身近に	<ul style="list-style-type: none"> <li>市政報告会の開催</li> <li>行政情報を収集し、市政を身近なものに</li> </ul>					



# 住まいづくり

目標：安全で安心な環境をつくろう

松永地区は、豊かな自然と国宝明通寺をはじめとする数多くの文化遺産に恵まれた地区です。私たちは社会基盤の整備を図るとともに、自然を守り、防災対策を充実させて住みよい環境づくりに努めます。

## 基本計画



### ■交通網の整備

将来の松永地区の発展を考えたとき、道路網の整備は欠かすことができません。県道小浜朽木高島線の早期建設に積極的に取り組むとともに、地区の玄関口としてJR小浜線新平野駅の周辺整備に取り組みます。

- (1) 若狭西街道の開通により国道27号へアクセスする車両が大幅に増えています。西街道と県道小浜朽木高島線の交差点および緑川団地・小学校付近の交通安全の確保を図ります。
- (2) 県道小浜朽木高島線と県道小浜上中線の接続整備を図ります。
- (3) 県道小浜朽木高島線の滋賀県側への一日も早い開通を目指し、生活圏域の拡大、交流人口の増加および産業の発展に努めます。
- (4) JR小浜線新平野駅周辺の整備を図り、松永地区の玄関口として活性化に努めます。
- (5) 地区内主要幹線道路（生活道路）の拡幅および改良整備を図ります。

### ■命と環境を守る

豊かな自然に恵まれた松永地区において、自然の再生および自然との共生を図っていくとともに、地区民の温かい人間性を守り育てていきます。

- (1) 豊かな自然との共存共栄を図るとともに、希薄になりがちな隣近所の声かけ運動により、助け合いの心を育みます。

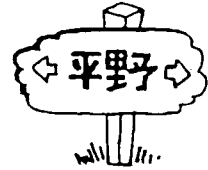
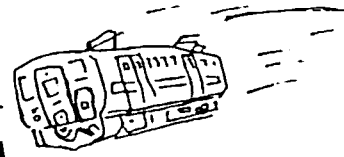
- (2) 小学校・保育園・公民館の周辺整備と交通安全の確保および除雪対策を徹底します。
- (3) ごみのポイ捨て防止運動を展開し、ごみのないきれいな村づくりを目指します。また、環境保護の観点からリサイクル運動にも積極的に取り組みます。
- (4) 野焼きの禁止を働きかけ、ダイオキシン対策に取り組みます。
- (5) せせらぎ水路・ピオトープでホタル・タニシ・カニ等の再生を図り、心が癒される環境づくりに努めます。
- (6) 葦の有効利用を図り、松永川の改修・美化に取り組みます。

## ■防災対策

危険箇所の把握および災害に対する危機管理意識の高揚を図り、被害の未然防止に努めます。

- (1) 山崩れ・鉄砲水・遭難事故等に備え、山の防災に努めます。
- (2) 決壊による洪水・浸水等に備え、川の防災に努めます。
- (3) 火災・地震・濁水・原子力災害等に備え、むらの防災に努めます。
- (4) 急傾斜地等危険箇所の把握を行い、防災マニュアルを作成します。避難所の周知徹底を図り、危機管理意識の高揚に努めます。
- (5) 幼児・児童の安全を確保します。
- (6) 強盗・空き巣・賽銭泥棒等に対しては、鍵かけを徹底する等、地区民の「声かけ運動」により防止します。
- (7) 悪徳商法に対しては、情報の共有を図り、毅然とした態度で被害の未然防止に努めます。

# ものづくり



目標：自然の恵みをいただこう

大規模圃場整備事業により、農業の担い手育成と経営基盤の整備、環境保全に努め、農林業の振興を図ります。また、松永の特色を活かした案内板・マップづくり等の事業を展開します。



## 基本計画

### ■もっと活かせる

自然の恵み・地理的条件を活かし、松永地区民が憩い・くつろげる環境整備に取り組めます。

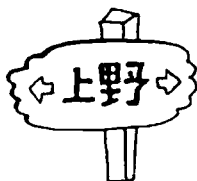
- (1) むらの廃道を地区民の心を癒すハイキング道として整備します。
- (2) コスモス街道のエリアを松永地区全域に広げ、地区民全員で花いっぱい運動に取り組めます。
- (3) 幼児、児童を対象に、「森の学校」、「川の学校」を開校し、自然を利用した遊びの楽しさと環境保護の大切さを学びます。



### ■農林業の振興

大規模圃場整備事業により、農地の保全と環境整備、生きがいづくりに取り組めます。

- (1) 農地の保全と広葉樹の造林等による山の保全ならびに水体系の保護に努めます。
- (2) 農業の担い手育成と経営基盤の整備により産業の振興を図ります。
- (3) 農村公園を整備し、地区民の憩いの場を確保するとともに、朝市の開催により松永の特産品を販売し、生きがいづくりに取り組めます。



## ■地産地消



安全で安心な食品をつくり、健康でいきいきとした村づくりに取り組みます。

- (1) 農村公園で朝市を開催し、生きがいづくりの拠点とします。
- (2) 松永川の葦を刈り取り、葦の有効利用を図るとともに、幼児・児童が川遊びを楽しめる環境をつくります。
- (3) 農林業体験を通じて自然の恵みを楽しみ、受入体制を整備して地区内外の人々の交流を図ります。



- (4) 恵まれた自然を活かし、創作活動を通じていきいきとした生活を送ります。

## ■ここが松永だ

地区民一人ひとりがむらづくりを通じ、松永のすばらしさを再発見し、松永のよさを全国に発信します。

- (1) 各区の集落案内看板を設置します。
- (2) 松永の玄関口に名称・旧跡の入った地図入り案内看板を設置します。
- (3) 松永案内マップを作成し、事業所・公共施設・JR新平野駅等において、松永のPRに努めます。
- (4) 地区民の創作の場として「赤とんぼ会館」を建設し、松永が輩出した児童文学者「山本和夫」氏の関係図書を展示します。
- (5) 国宝明通寺を中心とした観光客の誘致および受入体制の整備を図り、人々が行き交う活気のあるむらづくりに努めます。

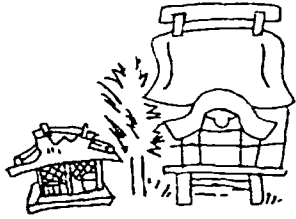


## ■食のむらづくり

松永地区独自の食の掘り起こし・開発に取組み、地区民が「食」に関心を持つことにより、健康でいきいきとしたむらづくりを目指します。



- (1) 松永に古くから伝わる伝統食・保存食・行事食等の掘り起こしを行い、地区民に広く紹介するとともに、地区行事、家庭の食卓のメニューに取り込んでいきます。
- (2) 安全で安心な松永の特産品の開発に取組み、商品化により朝市等での販売を目指します。



# 人づくり

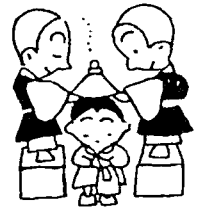
目標：心豊かにいきいきと生きよう

地区民一人ひとりがむらづくりに参画することにより、松永のよさを再発見します。

従来からの男女の役割分担・行事・生活習慣を見直し、住みよい松永を目指します。

少子・高齢化社会の到来により、高齢者のいきがづくり、青少年の健全育成に取組みます。

## 基本計画



### ■文化と歴史に誇りと愛着を

松永地区の歴史・文化に誇りと愛着を感じ、大切に守り育てていくとともに、地区外へも広くPRしていきます。

- (1) 「松永郷土史」を発刊します。
- (2) 地区に伝わる昔話・伝統行事等の郷土の知恵を発掘します。
- (3) 「松永音頭」を作成し、地区行事・祭りの際に老いも若きも踊ります。
- (4) 「山本和夫生誕の地」にちなみ、「童謡・童話の里」宣言を行い、地区民が詩・童謡・童話に親しみ、いつも音楽の流れるむらづくりを目指します。
- (5) 松永のホームページを開設し、松永のPRに努めます。
- (6) 「松永カルタ」を作成し、郷土愛を育むとともに、家族そろって楽しい団欒の時間を過ごします。

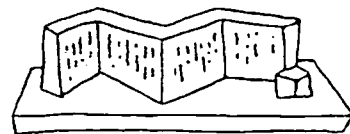
### ■健康いきいき

地区民全員が病気にならない、事故に遭わない事前の対策を講じ、いきいきとした生活が送れるようにします。

- (1) 健康マラソン・史跡ハイキング・ウォークラリー等を開催し、地区民こそって健康づくりに取組みます。

(2) 西街道を利用した「こぶし駅伝」を開催します。機会があれば隣接地区との合同開催を行い、交流の場を広げます。

(3) 「健康のむら宣言」を行い、定期健康診断を受ける等、自らの健康管理に努めるとともに、「心身すこやか講座」で学び、心とからだのリフレッシュを図ります。



## ■むらの発掘

自然・人・文化遺産等の発掘を行い、松永地区の財産として大切に守り育てていきます。

(1) 一芸に秀でた「むらの達人」を掘り起こし、生涯学習の輪を広げていきます。

(2) 「面山和尚の碑」を地区の財産として顕彰していきます。

(3) 地区の老若男女が集う「全員参加のむら祭り」を開催します。

## ■生涯学習

趣味を活かし、気の合う仲間と一緒に生きがいづくりを展開します。

(1) 幼児・児童が自然に親しみ、生き物とふれあうことにより、心豊かな人間性を育みます。

(2) 交流人口を増やし、異文化に触れ親しむことにより多くのことを学びます。

(3) 「松永塾」を開校し、ふるさとづくりの拠点と位置付けます。「学びのむら」宣言を行い、生きがいづくりと人材の育成に努めます。

(4) 囲碁・将棋等を通じて、世代間交流を図ります。

## ■慣習の見直し

従来からの行事・習慣等を見直し、だれもが住みよい環境をつくります。

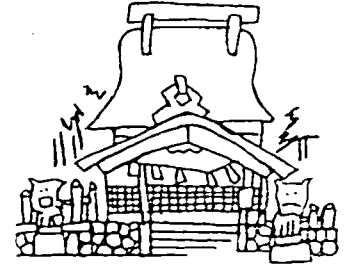
(1) 缶蹴り・釘さし・鬼ごっこ等、素朴なむかしの遊びを守り伝えていきます。



- (2) 「男女共同参画社会」の学習と実践を通じて、家庭での男女・子供の役割、集落・地区における女性の参画機会の均衡を図ります。
- (3) 既存の各種団体の見直し（統廃合）を行い、スリム化を図ります。
- (4) 集落・地区の行事、生活習慣を見直し、みんなで住みよい松永をつくっていきます。

## ■ 高齢者・青少年対策

高齢者の生きがいづくりと青少年の健全育成に取り組めます。

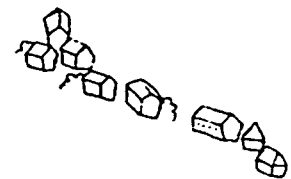


- (1) 「宅老所」を建設し、高齢者いきいきゾーンを設定して高齢者の生きがいづくりに取り組めます。
- (2) 一人暮らしのお年寄りへの声かけ運動を展開し、心のケアに努めます。寝たきり老人をつくらない運動と買物・除雪等のボランティア活動を展開します。
- (3) 幼児・児童と高齢者の世代間交流を行います。
- (4) 子どもが地区行事に積極的に参加することにより、地区民としての意識付けと郷土愛を醸成します。
- (5) 地区の宝である子どもたちを「家庭—地域—学校」が連携を取りながら、一体となって育てていきます。
- (6) 子どもたちが同年代の交流に偏ることなく、縦社会の中で自分の役割・社会のしくみを学びます。

## ■ 市政を身近に

市政に関心を持ち、まちづくり・むらづくりに積極的に参加します。

- (1) 議員による市政報告会の開催、議会の傍聴等を行い、政治を身近なものとして捉え、自己啓発・意識の高揚を図ります。
- (2) 行政情報を積極的に収集し活用することにより、まちづくり・むらづくりに役立てます。





## 振興実施計画（5年間）

### 住まいづくり

実施項目 / 年度	16	17	18	19	20	地区との関係	備 考
ごみのポイ捨て防止	○	○				地区	不法投棄の防止 ごみのないむらづくり
分別収集の徹底	○	○				地区	不燃物・可燃物等分別の徹底
防災マニュアルの整備			○	○		市・地区	危機管理意識の高揚 避難場所の確保と周知徹底
新平野駅周辺整備		○	○			県・市・地区・JR	松永の玄関口の整備 案内看板の設置
若狭西街道の整備	○	○	○	○	○	国・県・市・地区	国道27号との接続 県道小浜上中線との接続
小浜朽木高島線の整備	○	○	○	○	○	国・県・市・地区	小浜朽木高島線の開通
主要幹線道路の整備	○	○	○	○	○	市・地区	舗装・拡幅改良等
松永川の改修	○	○	○	○	○	県・市・地区	松永川の改修による環境整備
せせらぎ水路・ビオトープ	○	○	○	○	○	国・県・市・地区	環境整備・環境保全

### ものづくり

実施項目 / 年度	16	17	18	19	20	地区との関係	備 考
松永マップの作成	○					地区	松永の歴史や行事をまとめて 地区のPR
伝統保存食・行事食の発掘	○	○	○	○	○	地区	食を通して歴史を学ぶ 命の尊さを学ぶ
大規模圃場整備事業	○	○	○	○	○	国・県・市・地区	担い手の育成と経営基盤の整備 生活環境の整備
コスモス街道の整備	○	○	○	○	○	地区	環境整備 花に囲まれ心豊かに
森の学校・川の学校	○	○	○			地区	自然と親しむ 自然に学ぶ
朝市の開催				○	○	地区	いきがづくり 地産地消
赤とんぼ会館の建設			○	○	○	国・県・市・地区	山本和夫資料館の建設 創作の拠点づくり
ハイキング道の整備	○	○	○			地区	廃道を整備して癒しの道に
松永案内看板の作成			○	○	○	地区	松永の玄関口に案内看板を設置
農村公園の整備	○	○				国・県・市・地区	憩いの場・生きがづくりの場
特産品の開発・販売			○	○	○	市・地区	松永の特産品を開発し、朝市で 販売

人づくり

実施項目 / 年度	16	17	18	19	20	地区との関係	備 考
ウォークラリー	○					地区	松永地区の名所旧跡をクイズ形式でファミリーウォーク
健康マラソン		○				地区	遠敷地区との合同も考える
祭り再発見			○	○		地区	地区民全員参加の祭りを開催
みんなの詩		○	○	○		市・地区	山本和夫名にて詩や物語を募集し発表
ホームページの開設		○	○			地区	松永の歴史や行事の紹介をホームページに掲載
松永カルタの作成		○	○			地区	松永カルタで一家団楽
松永音頭の制作	○	○				地区	みんなで踊って心もひとつ
松永郷土史発行	○	○	○	○	○	地区	
「松永塾」の開校	○	○	○			地区	むらづくりの拠点 村の達人の発掘と講座の開催
一人暮らし高齢者対策	○	○	○			地区	訪問による声かけ運動 ボランティア活動の展開
慣習の見直し		○	○			地区	各集落、地区の行事の見直し 各種団体の見直し（統廃合）
市政報告会の開催	○	○				地区	行政情報を収集し、むらづくりに活用

# 資 料 編

## 松永地区いきいきふるさとづくり策定委員会名簿

顧問：深谷嘉勝市議会議員・山崎勝義市議会議員・池田英之市議会議員

参与：石田長四郎元区長会長・青山吉一元区長副会長・永田訓一前区長会長

■委員長：須田 誠次      副委員長：西田 尚夫・山本 和美      事務局：伊須田 尚

### ■住まいづくり部会

部会長：川畑 哲夫      副部会長：清水 利香      書記：田中 正俊（行政区順）

住 所	氏 名	住 所	氏 名
太興寺	清水 利香	太興寺	本田 眞希雄
太興寺	田中 正俊	上 野	山本 和美
三分一	西田 尚夫	門 前	池野 嘉仁
池河内	川畑 哲夫	池河内	山鼻 文枝

### ■ものづくり部会

部会長：森下 繁      副部会長：宮脇 美恵子      書記：松川 雅弘（行政区順）

住 所	氏 名	住 所	氏 名
東市場	伊須田 尚	太興寺	宮脇 美恵子
平 野	宮本 康好	四分一	千 義彦
四分一	松川 雅弘	三分一	中辻 文博
門 前	森下 繁		

### ■人づくり部会

部会長：内藤 務      副部会長：松川 宗生      書記：小畑 成人（行政区順）

住 所	氏 名	住 所	氏 名
東市場	須田 誠次	平 野	松宮 球子
上 野	内藤 務	四分一	松川 宗生
三分一	寺下 澄枝	三分一	小畑 成人
池河内	馬 和彦		

## 松永地区いきいきふるさとづくり策定委員会活動報告

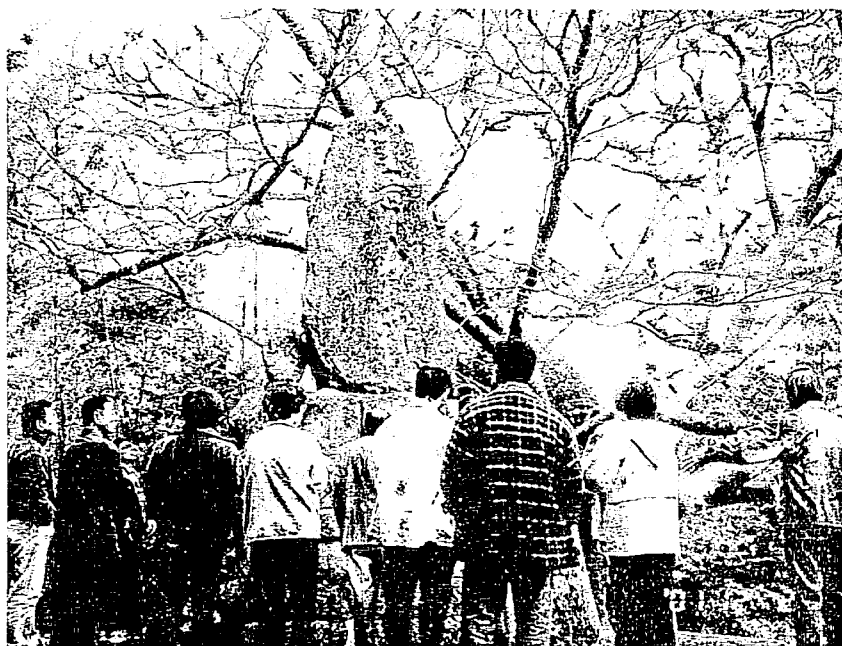
期 日	項 目	摘 要
H13. 10. 9	第1回委員会	役員を選出等
H13. 10.15	第1回三役会(正副委員長・事務局)	今後の活動計画について
H13. 10.30	第2回委員会	規約の制定・部会の所属割り等
H13. 11.15	第2回三役会	研修会の開催について
H13. 11.20	第3回委員会	市からの説明
H13. 12. 2	第1回役員会(三役・部会長)	アンケート調査の実施について
H13. 12. 2	研修会	講師：小畑昭八郎氏・現地視察
H13. 12.10	第2回役員会	アンケート調査の実施について
H14. 1.19	第4回委員会	//
H14. 2. 2	第3回役員会	//
H14. 3.28	第4回役員会	実績報告・新年度事業等について
H14. 5. 7	第5回役員会	アンケート集計・今後の活動について
H14. 5.31	第5回委員会	実績報告・アンケートの集計について
H14. 6.12	第3回三役会	広報紙の発行・先進地視察について
H14. 6.26	第6回委員会	//
H14. 7.14	先進地視察(研修会)	福井市岡保地区
H14. 8. 7	第6回役員会	専門部会の活動報告について
H14. 8.23	第7回役員会	委員会・部会の活動計画について
H14. 9.19	第7回委員会	専門部会の活動報告について
H14. 9.26	第8回役員会	アンケートの分析結果について
H14. 12. 9	第9回役員会	看板の作成について
H14. 12. 26	第1回看板の作成	トレース
H15. 1.21	第2回看板の作成	彫り
H15. 2. 4	第3回看板の作成	彫り
H15. 2. 5	第10回役員会	委員長会議の報告・看板の作成について
H15. 2.13	第4回看板の作成	彫り
H15. 2.14	第5回看板の作成	塗り
H15. 2.20	第8回委員会	専門部会の報告・看板の作成について
H15. 2.24	第6回看板の作成	彫り(完了)
H15. 2.28	第11回役員会	委員会の活動スケジュールについて



## 【活動写真】

### 委員会・役員会・専門部会

◎平成13年10月9日の委員会を皮切りに、委員会の立上げ、アンケート調査、看板づくり、計画書の作成等について開催しました。



### 研修会「松永の歴史を知ろう」 (平成13年12月2日)

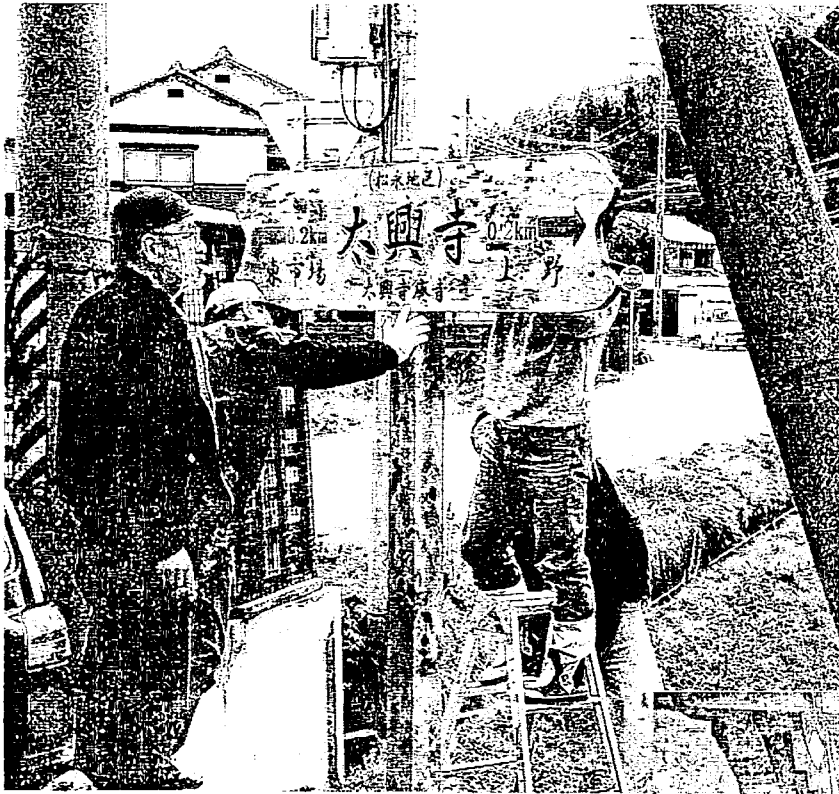
◎松永出身の小畑昭八郎氏に講師をお願いし、公民館で松永の歴史について講演を受けたあと、面山和尚の碑、明通寺等松永の名所旧跡の現地視察を行いました。

### 先進地視察（岡保地区）

(平成14年7月14日)

◎小浜市のまち・むらづくりの取組みと類似している福井市岡保地区を視察しました。活発な取組み状況、市の支援体制等の説明を受け大変参考になりました。また、岡保地区の皆さんのまちづくりにかかる熱意を肌で感じ、「まちづくりは人づくり」の思いを強くして帰ってまいりました。

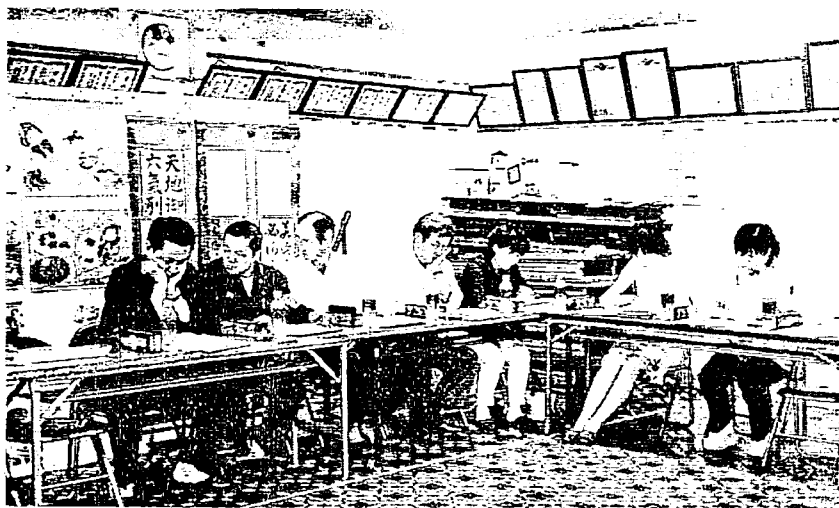




### 看板づくり

(平成14年12月26日  
～平成15年3月23日)

◎手作りの看板を区ごとに作成し、設置しました。この看板作成活動が認められ、市のまちづくり景観賞の最優秀賞を受賞することができました。この受賞を契機に、わがふるさと『松永』を地区内外に情報発信していきましょう。



### 各種団体との意見交換会

(平成15年7月17日)

◎計画書策定の参考とさせていただくため、各種団体長にお集まりいただき、貴重なご意見をお聞きしました。平成16年度から振興計画に沿って活動していく中で、多くの皆様の参画・ご協力をお願いいたします。



## 《地名の由来》

■ 松永という地名は、平安時代の古文書『続日本紀』に、「仁明天皇の承和己未年（839年）、紀松永（きのまつなが）を若狭国守に任命する」という記述があり、さらに『東寺百合文書』に「松永保内恒枝名田」（大治元年・1126年）という記載があることから、平安時代末期には確実に存在し、その由来は「紀松永」に求めることができるようです。

また、松永地区の中央にそびえる茶臼山城は松永谷の入口につくられています。その構造はとても簡単なものであり、比較的古い時期に短期間で築かれた山城と考えられます。

◆東市場：松永川の最下流に位置し、丹後街道沿いに発達した集落です。地名の由来は、遠敷市庭（いちば・現在の「市場」）の東に市が立ったことによります。農村部にありながら商工業が発達した区でもあります。また、この集落には大工が多数住んでいたことも記録されています。

◆太興寺：松永谷の入口東側に位置し、丹後街道とそれに直交する道路に沿って発達しました。記録では「躰興寺」と書かれたものが早く見られます。現在の集落の地下には「太興寺廃寺」という古代のお寺の遺跡があり、この区の地名はそこから来ていると考えられます。また、集落北東には市指定史跡の太興寺古墳群があります。

◆平野：北川中流左岸、伊曾畑山の裾野に位置し、丹後街道とそれに直交し野木へ向かう街道沿いに発達した集落です。この区では松永で最も早く人の定住が確認されており、弥生時代後期（約2000年前）の遺跡が集落の下に存在します。また、JR新平野駅の東側にある白鬚神社前方後円墳は、上中町脇袋から西へ続く若狭の王墓の最後の古墳にあたる考えられています。

◆上野：松永川中流左岸の扇状地上に、お寺を頂点として集落が形成されています。集落北側には曹洞宗屈指の学僧で空印寺元住職瑞方面山が開いた曹洞宗永福庵跡があり、現在は杉田玄白の父杉田甫仙による石碑が建立されています。また、大正から昭和初期にかけては区をあげて養蚕を行っており、池河内と並び松永村の二大産地となっていました。

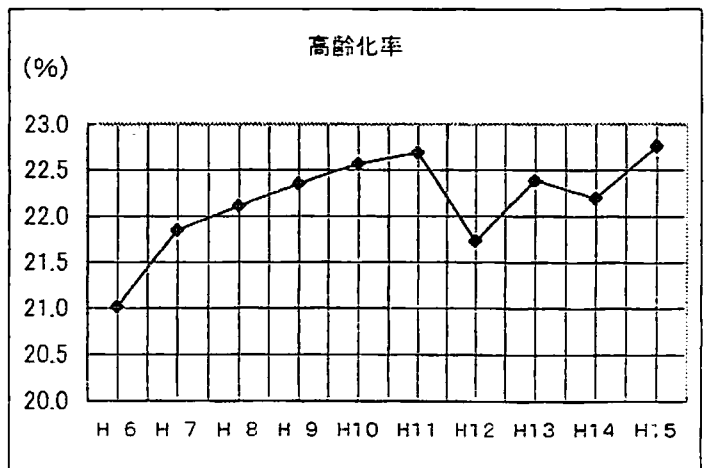
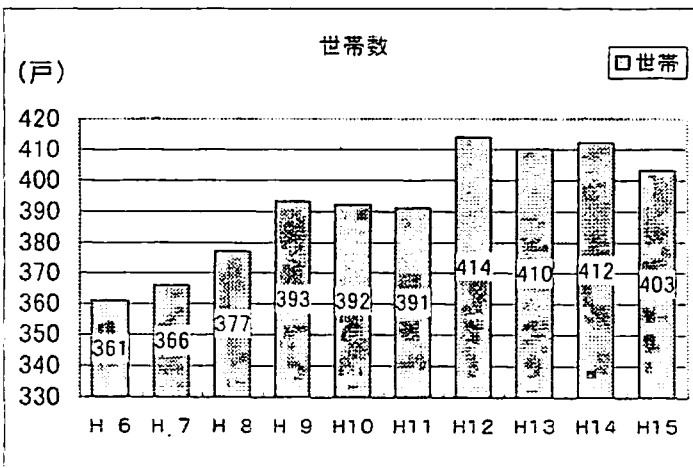
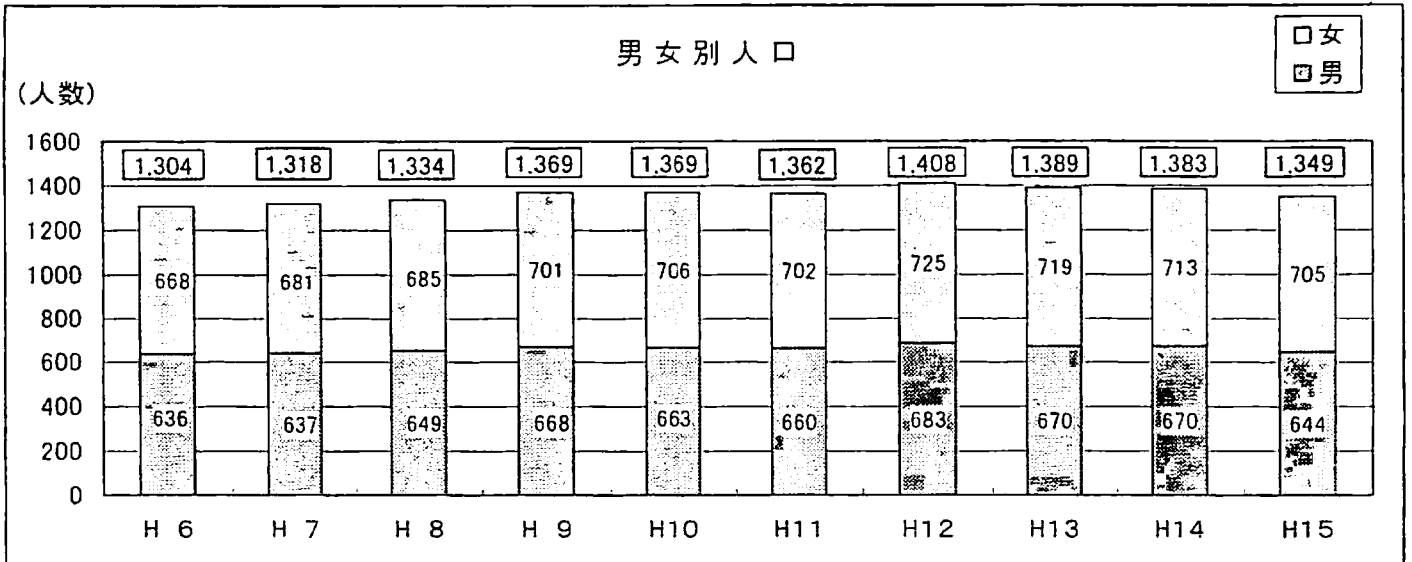
- ◆四分一：古文書には「四分市」とも書かれており、松永川中流右岸に位置します。当集落は区内南の紅梅谷にあったものが現在の位置に移ってきたとされています。  
集落の北側にある法雲寺では毎年7月1日の夜明けに「すり鉢やいと」の例祭が行われています。また、このお寺の地蔵菩薩坐像は平安時代の貴重な仏像です。
- ◆三分一：古文書には「三分市」とも書かれており、松永川中流に位置します。明通寺に残る古文書では三分一に先行して「寺野」の村名が散見され、その成立には明通寺と深い関わりがあったものと思われます。
- ◆門前：松永川上流左岸に位置し、明通寺門前に開けた集落であることからこの名がついています。  
明通寺は真言宗御室派の大寺で、福井県内唯一の国宝建造物（本堂・三重塔）を持つ寺として有名です。また仏像も本尊を含め4体が重要文化財の指定を受けており、その他の文化財も多く、若狭を代表するお寺といえるでしょう。
- ◆池河内：池河原とも記録されており、松永川最上流に位置します。その立地から近江との繋がりもあったようです。また、江戸時代になると小浜藩の森林資源管理を任されており、そのためか松永地区の中でも家屋数が多いことがわかっています。

文献：日本地名大辞典（角川書店）ほか

人口・世帯数の推移(過去10年間)

単位:人

年 度	全体人口	内 訳		世帯数	高齢化率 (%)	65歳以上 の人口	内 訳	
		男	女				男	女
H 6	1304	636	668	361	21.0	274	120	154
H 7	1318	637	681	366	21.9	288	120	168
H 8	1334	649	685	377	22.1	295	119	176
H 9	1369	668	701	393	22.4	306	123	183
H10	1369	663	706	392	22.6	309	126	183
H11	1362	660	702	391	22.7	309	126	183
H12	1408	683	725	414	21.7	306	122	184
H13	1389	670	719	410	22.4	311	128	183
H14	1383	670	713	412	22.2	307	122	185
H15	1349	644	705	403	22.8	307	119	188





おばま



JR小浜線

東市場



観音堂

太興寺  
古墳郡

白鬚神

桜神

至まいづる  
至なたしよ

ひがし  
おばま

R27

遠敷谷

日吉神社



太興寺

日枝神社  
太興寺  
廃寺跡



四分一

西  
街道

松永川

至おにゆう

上野



面山記念碑



天満宮

茶臼山城跡